

urawagakuin high school

# MEMORIAL& TRADITION

2024年度 石巻・東松島交流活動  
第101班 3.11追悼・伝承コース  
2025.3.11～12

今回の石巻・東松島交流活動は一般公募し、志望理由書による選考を経て17名の生徒が参加しました。

追悼・伝承コースとして、震災当時の記憶がほとんど残っていない現在の高校生が「何を感じ、考え、伝えるか」。参加した生徒たちの意識は高く、とても有意義な2日間となりました。

東日本大震災から14年。研修を終えた生徒たちからは「個人でできる災害への備え」や「避難訓練の重要性」、「伝承の必要性」についての振り返りが多く挙げられました。これらの学びを日常に持ち帰り、今後の生活に活かしていきたいと思います。



■東松島市震災復興伝承館  
(旧野蒜駅)

■東松島市防災備蓄倉庫

■石巻市震災遺構門脇小学校

■石巻南浜津波復興祈念公園

■石巻市震災遺構大川小学校



urawagakuin high school

# 石巻・東松島交流活動

第101班 3.11追悼・伝承コース

2025.3.11～12

参加生徒による振り返りポートフォリオ



私は、今回の活動を通して現地の方が仰っていた印象に残った言葉があります。それは「町並みなどは、時間が経って変わって行っても心の傷や気持ちは、変わらないこの先が心配だと」という言葉です。私たちが出向いた数々の場所の方は、とても明るい方が多い印象でした。ですが、話している最中に涙ぐんでいる方、感情が込み上げてきて話を止められた方など14年という我々は長いと思ってしまう時間でも、現地の方々にとってはとても短く辛い14年という事を身をもって感じさせられました。

また、現地の方がこの先災害が起きた時に気をつけるべきこととして仰っていたことが皆さん共通していました。それは、まず第一に自分の命を守る行動してください。というものです。被災者の多くは、家族や飼ってるペットなどを探しに行った方もしくは、助けに戻られた方が多いと聞きました。災害時に自分の身を守る行動をとるには、日頃から防災マップや避難経路などを確認し、いざと言う時に動けるようにしておくことだと思いました。（2学年 男子生徒）

urawagakuin high school

# 石巻・東松島交流活動

野蒜駅に行き、ガイドさんの話を聞いて、災害の恐ろしさと、当時の詳しい状況を知ることができました。ガイドさんが涙ながらに言った「関係ない自分たちのために支援していただいととても嬉しい」という言葉がとても心に刺さりました。また、「親は子供が無事であることが一番だから、まずは自分を守ることをしてほしい」と言っていたので、このことを心に刻み、知人にも共有しようと思いました。

防災倉庫では防災倉庫の機能や、目的を説明していただきました。被災したからこそその様々な対策がありました。また、簡易トイレや、簡易ベッド、簡易ブースの体験をさせていただきました。防災倉庫にすべての防災対策が詰まってると言っても過言ではないぐらい考え尽くされていると実際に見てみて感じました。

日和山では2時46分に追悼させていただきました。日和山に被災前の写真があり、現在との差に驚愕しました。改めて、津波の威力を知りました。このとき、被災者の方から話をしていただき、話のなかで、「復興は進んだが、心は震災当時からかわらない」と、震災が被災者たちに与えた感情は一生消えないものなんだなと思いました。門脇小学校では、教壇をはしごにして裏山に逃げたから助かったという、臨機応変に対応することの重要性を感じました。また、津波が火を運んで二次災害が起こることは知っておくべきだと考えました。

私は対策の現状や、東日本大震災の悲惨さ、そして私たちがすべきことを学ぶことができました。これからもボランティア活動を通して様々なことを感じ取って行きたいと思いました。また、これらのことを自分だけでなく、他者へ伝えて、伝承していこうと思います。（2学年 男子生徒）

urawagakuin high school

# 石巻・東松島交流活動

1日目の旧野蒜駅ではガイドの方より野蒜駅の具体的な津波の状況などをお話しいただき、1番心に残った言葉は「マニュアル通りではなく最後は自己判断が大切」この言葉の重みを知りました。

2日目はキャンドルの撤去を中心としたボランティア活動を行いました。現地の人や他県から来たボランティアの方と様々なコミュニケーションをとりながらの活動を行うことが出来ました。

その後、大川小学校に行き、大勢の児童や先生が亡くなってしまった学校の様子をみて地震や津波の恐ろしさを改めて思い知ることが出来ました。この活動を通して自分は、自分の命を自分で守ること。そして、大人の判断が全て正しいとは思わないことが必要だと感じました。自分の命は自分が守り判断を行う、これを常に行動の軸にしたいと思います。とにかく、1人1人がいつ災害が起きてもいいような準備と心がけが必要なのだと2日間を通して学ぶことが出来ました。（2学年 男子生徒）



urawagakuin high school

# 石巻・東松島交流活動

野蒜駅では線路が地震の影響で想像出来ないくらい曲がっていたり、震災後の電車が曲がっていた様子や街並みを見て恐ろしさを知りました。また、説明の中で松の木のおかげで津波が10mから3mまで弱まったと言っていました。しかし、3mの津波でも被害が十分大きいと感じました。街を壊したのは自然ですが、街の被害を最小限に守ってくれたのも自然でした。だから、自然を上手く利用して安全な街づくりが必要だと考えました。

キャンドル撤去のボランティアは同じ年位の人から年配の人がキャンドル撤去のボランティアに参加していました。地元の人と話している中で地域で助け合って来たことが伝わりました。

今回の活動で身を守る方法を少し知れたのでこれを糧に自分の身を守れるように行動したいです。そして、周りの人も守るためにこの活動で感じたことを周りに伝えていきたいです。また、当時の人の思いや状況などデータでは見ることの出来なかったことをこの活動で感じる事ができて本当に来てよかったと思える活動でした。（1学年 女子生徒）



urawagakuin high school

# 石巻・東松島交流活動

今回、東日本大震災被災地訪問に交流活動と中々できない経験で、行く前は「地元の人に失礼のある行動をしてしまわないか」と不安な気持ちでしたが、実際に会って話してみると地元の人みんな優しく、感謝の気持ちを述べられると自分まで嬉しい気持ちになりました。

自分が印象に残っている場所は1日目に訪れた旧野蒜駅で話された千羽鶴のエピソードです。震災による被害で、被災者が苦しい生活を送っている中、千羽鶴などの復興応援品は被災者にとっても大きな励みになったと施設のガイドさんが涙ぐみながら説明している姿に考えさせられるものがありました。現地の人からの話を聞く機会が多くあったのですが、「震災はいつ来るか分からないので、いつでも避難の準備が出来るようにしておく。何があっても自分の命優先に行動する。」といった内容の話が多く、とても参考になりました。地震による被害は埼玉に住んでる自分たちでも決して関係がないわけではなく身近な話でもあるので、自分たちもこの経験を持ち帰り、自分の心の中で留めるだけでなく家族や友人に伝え、伝承していこうと思います。(2学年 男子生徒)

